

葛飾区との協定を締結

11月27日、都産技研と葛飾区(区長 青木 克徳)は、業務連携に関する協定を締結しました。葛飾区は、昭和63年に「テクノプラザかつしか」を設立し、地域産業の振興を図っています。都産技研は、隣接地に東京都が平成3年に城東支所を開設し、これまでも技術審査や葛飾区産業フェアと城東支所施設公開との同時開催など、協力関係を築いてきました。

今回の葛飾区との協定締結をきっかけに、葛飾ブランド「葛飾町工場物語」の技術審査をはじめとする重点的実施事業と、企業の技術力・製品開発力の向上を目指す包括的実施事業を連携・協働して行っていきます。このことにより地域の中小企業等に対し幅広く技術支援、情報提供、産学公連携等を行い、地域産業の活性化および地域連携の推進につなげることを目的としています。



▲片岡理事長と葛飾区 青木区長(左)

技術研究会「東京都健康福祉研究会」が生活技術開発セクターの見学会を開催

都産技研では、産業交流事業の一環として都内中小企業の経営者・技術者によって構成される技術研究会の設立および運営を支援しており、現在は27の技術研究会が課題解決や技術力向上を目的として活動しています。東京都健康福祉研究会は、健康・福祉に関する機器・用具・用品の技術と応用、管理運用についての研究を目的に掲げ、平成8年に設立された技術研究会で、昨年12月の例会では生活技術開発セクターの見学会を開催しました。



▲熱心に見学される東京都健康福祉研究会の方々

同研究会の研究分野は、「快適・健康」「安全・安心」に関する性能評価設備を充実させている生活技術開発セクターとの関わりが深く、参加された会員の方々は、圧力分布計測システムや視線追尾システム、におい識別装置など新たに導入した機器に興味深く見学されていました。当日は、研究会会員である晴山会理事長の平山登志夫先生よりお話をいただいたほか、都産技研職員による研究紹介も行い、会員の方々の中で活発に意見が交わされました。

シンポジウム「世界に勝つものづくり」を開催しました

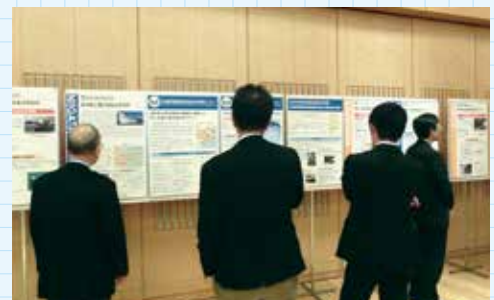
12月10日、ホテルラフレさいたま(さいたま市中央区)にて、シンポジウム「世界に勝つものづくり」を開催しました。これは、1都10県の広域首都圏の公設試験研究機関が共同で、経済産業省関東経済産業局からの受託により実施している、平成24年度補正予算事業「地域新産業創出基盤強化事業」の紹介とMTEP(広域首都圏輸出製品技術支援センター)の開設1周年を記念して行われたものです。

基調講演には、東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センターの吉川 良三氏より、サムスン電子での貴重な経験から、グローバル時代に日本企業が再浮上するために、地域密着型モノづくりを行う大切さについてお話いただきました。また、グローバル・テクノマネジメント研究所 所長 平戸 昌利氏には、国際規格対応や海外への売り込み戦略など、中小企業の海外展開方法の転換についてお話をいただき、約270名の方が参加され熱心に聞き入っていました。

会場後方には、本事業で導入した機器全28機種をパネル展示にて紹介し、休憩時間には各機関からの説明員が利用促進に向けて熱心に説明を行いました。本事業については今後お客さまにご利用いただけるよう、詳しく情報発信していきます。



▲吉川氏による基調講演



▲パネル展示にて新規導入した全28機種を紹介